再評価結果(平成27年度事業継続箇所)

<u>担 当 課:道路局 国道・防災課</u>

担当課長名:茅野 牧夫

事業名	 一般国道2号 倉敷立体 	事業 一般国道区分	事業 主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	おかやま くらしき しんでん 自:岡山県倉敷市新田		延長	
	おかやま くらしき ふなおちょうふなお 至:岡山県倉敷市船穂町船穂			7.7km

事業概要

一般国道2号は、大阪市を起点とし、瀬戸内海沿岸の諸都市を連絡し、北九州市に至る延長約670kmの主要幹線道路である。

倉敷立体は、倉敷市新田〜倉敷市船穂町船穂間の交通混雑の緩和及び沿道環境の改善を図る事業であるとともに、地域高規格道路「倉敷福山道路」の一部を構成する延長7.7kmの道路である。

H 1 9 年度事業化 S 4 3			3 年度	都市	計画決定			_		H 1	9年	度工事:	着手		
			(S	47年	度変.	更)									
全体事業費			4 億円	事業	進捗率	I I		5 2 %	供用	済延長	•	1	5.	O km	
計画交通量			900	~ 76, 70	00台,	/日									
費用対効果	B/C	1		総費	用:	(残事業)/(事	業全体)		総便益	(残事業)/	(事業全体)		基準年	Ξ ¦	
分析結果	(事業全体	3.	5			73/	184億円	_		300	6/635億	意円	平	成26年	E
				事	業	費:65/	161億円		走行時間短網	宿便益:	254/5291	億円 🗋			
	(残事業)	4.	2	維持	宇管理	2費:8.2	/22億円		走行経費減少	少便益 :	35/ 741	億円			
									交通事故減少	少便益 :	17/ 321	億円 丿			

|感度分析の結果 | |

【事業全体】交通量:B/C=3.0~4.0(交通量±10%)【残事業】交通量:B/C=3.6~4.9(交通量±10%)

事業費: B/C=3.3~3.6(事業費±10%) 事業費: B/C=3.8~4.6(事業費±10%) 事業期間: B/C=3.3~3.6(事業期間±20%) 事業期間: B/C=4.0~4.3(事業期間±20%)

事業の効果等

- ①円滑なモビリティの確保
- ・損失時間の削減が見込まれる
- ・倉敷市から新倉敷駅(新幹線駅)へのアクセスが向上
- ・浅口市から岡山空港(第三種空港)へのアクセスが向上
- ②物流効率化の支援
- ・岡山市から水島港(特定重要港湾)へのアクセスが向上
- ③国土・地域ネットワークの構築
- ・日常活動圏の中心都市へのアクセスが向上【浅口市〜岡山市、浅口市〜倉敷市】
- ④個性ある地域の形成
- ・倉敷美観地区(H25年間観光入込み客数341万人)へのアクセスが向上
- ⑤災害への備え
- ・岡山県緊急輸送道路ネットワーク計画(平成26年1月)において緊急輸送道路に位置づけ有り
- ⑥地球環境の保全
- ・CO2排出量の削減が見込まれる

関係する地方公共団体等の意見

倉敷立体事業は、渋滞の著しい一般国道2号の交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、倉敷市長をはじめ、関係する市町等より早期整備の要望(平成26年7月9日)を受けている。

岡山県知事の意見:継続するとの対応方針(原案)については異存ありません。

一般国道2号の交通渋滞の緩和が図られるとともに、事故の減少や物流・観光等への支援による地域活性 化も期待されることから、本事業の早期完成が必要である。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針(原案)について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。

審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、 妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・平成23年12月にアウトレットモールとしては中国地方最大級となる「三井アウトレットパーク倉敷」がオープン。 ・平成25年4月に倉敷中央病院が県内5ヶ所目の救命救急センターに指定され、県西部の救急医療拠点として 期待。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成19年度に事業化、事業進捗率52%(平成26年3月末時点)

平成21年度: 倉敷市新田~倉敷市中島間 延長3.6km (4/4)部分開通

平成22年度:倉敷市中島~倉敷市片島町間 延長1.4km(4/4)部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成31年度:全線4車線開通予定

施設の構造や工法の変更等

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減を図りつつ事業を推進していく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。